

# わがまちに残る戦跡遺跡

## 「東京陸軍少年飛行兵学校跡地」

(国土地理院発行、昭和22年撮影)

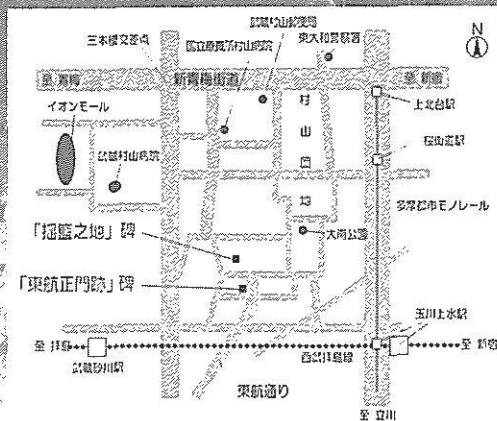
### 交通及び案内図

#### 「東航正門跡」碑

西武拝島線「玉川上水駅」下車、武蔵村山市内循環バス(MMシャトル)東ルート「大南三丁目」下車徒歩10分

#### 「揺籃之地」碑

西武拝島線「玉川上水駅」下車、武蔵村山市内循環バス(MMシャトル)東ルート「大南三丁目」下車徒歩5分



### 新指定の市旧跡

東京陸軍航空学校(後に東京陸軍少年飛行兵学校と改称)は、昭和12年(1937)に開設された陸軍航空兵の養成学校で、その建物は現存していませんが、かつて少年飛行兵学校の正門があった付近には、平成11年4月に「東航正門跡」(写真1)が、学校跡地の一画には平成2年10月に「揺籃之地」(写真2)の石碑が建てられています。

平成19年7月10日、武蔵村山市教育委員会では市内に軍事施設が存在したことを後世に伝え、世界恒久平和を祈るために、石碑が建てられているこの二つの地を旧跡「東京陸軍少年飛行兵学校跡地」として、市の文化財に指定しました。



写真1「東航正門跡」碑

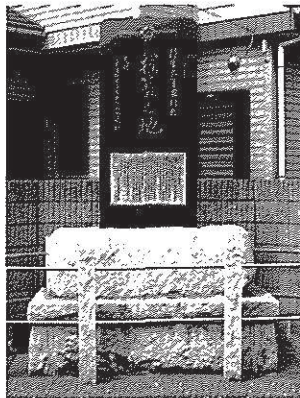


写真2「揺籃之地」碑

### 東京陸軍航空学校の設立

大正3~7年(1914~18)の第一次世界大戦において戦車や航空機といった新たな戦争兵器が登場したことから、旧日本軍においても飛行兵の養成は急務となりました。一方で、優秀な技術を持った下士官を養成するための少年兵制度が昭和8年(1933)に設けられ、少年兵教育が旧日本陸軍の教育機関である諸学校で実施されはじめました。

そして昭和9年には所沢陸軍飛行学校に少年飛行兵の一期生が入学し、昭和12年10月には熊谷陸軍飛行学校内に東京陸軍航空学校が仮設ながら開設されました。翌13年8月に村山村中藤に新校舎が完成し、同年9月に学校は当地に移転してきま

した。

学校に入学するには尋常小学校卒業以上で満15歳から17歳までの者とされ、午前中には国語・数学や兵器学などの授業が行なわれ、午後は軍事教練などを行う術課と体操の授業があり、これら一年間の課程が修了すると、操縦・整備・通信の各分野に分かれた二年間の上級教育に進みました。また学校北側の練兵場では、プライマリー(初級)グライダーを使った滑空訓練も行われていました。

### 学校名の改称から現在まで

昭和16年太平洋戦争が起きました。そして昭和18年3月に陸軍少年飛行兵学校令が公布され、名称を東京陸軍少年飛行兵学校と改めました。しかし戦争の劣勢化に伴い、学校の授業時間は減少し、少年飛行兵は防空壕掘りなどに動員されるようになったようです。昭和20年4月には学校側も戦局の悪化を感じていたようで、当時の村山国民学校に「空襲被害における校舎借用願」という申入れをしています。

東京陸軍少年飛行兵学校は昭和20年11月26日、陸軍少年飛行兵学校令の廃止を受けて廃校となり、生徒たちには終戦直後に復員命令が出て帰郷したようです。

少年飛行兵学校の跡地は、終戦直後の食糧難に備えるため、周辺の農家等に払い下げられました。その後、村山町が住宅建設を働きかけた結果、昭和41年に学校跡地の一部を含んで都営住宅村山団地が誕生することとなりました。

こうして武蔵村山市に存在した少年飛行兵学校は姿を消しましたが、2つの碑のほかにもその名は立川市砂川に「東航通り」という道路名に残っています。

### 問い合わせ先

武蔵村山市立歴史民俗資料館

住所：〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1

電話：042-560-6620 ファクシミリ：042-569-2762

電子メール：mmc-reki@blu.m-net.ne.jp